

令和5年3月27日

浦添市議会議長 殿

福祉委員会
委員長 又吉 正信

福祉委員会視察報告書

令和5年1月12日に、委員会視察を実施いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

- 1 視察期間 令和5年1月12日（木）
- 2 視察場所 名護市 子育て支援広場 ヤッホーハウス
- 3 視察項目 子育て支援拠点施設における取り組みについて
- 4 視察参加者 上原 聖也（※副委員長） 新垣 有太 當間 左知子
仲村 直子
- 5 調査内容 別紙1のとおり

※ 視察時は副委員長であったが、令和5年3月8日より新垣有太委員が副委員長となっている。

視察日	令和5年1月12日(木)
視察先	沖縄県名護市 子育て広場 ヤッホーハウス
視察先の概要	
<p>「子育て広場 ヤッホーハウス」は名護市が実施している地域子育て支援拠点事業のひとつであり、「子育て親子の交流の場の提供と交流の促進」「子育て等に関する相談・援助の実施」を行っている。すぐ近くに友人や親戚がおらず、部屋の中で子育てしている家庭が多い中、なんとか外出してもらい、ヤッホーハウスで友人を作って、リラックスして過ごすことのできる場を提供できたという思いで設置されている。施設にはセルフサービスのカフェコーナーやのんびり読書ができる図書ルームがあったり、ハンモックや2階の屋根裏部屋などもあり、子供も保護者もわくわくするような、リラックスできるような空間となっている。月1回、名桜大学より看護科の先生(看護師・助産師・保健師)3名も施設を訪問し、相談できる体制が構築されている。</p>	
調査項目	
子育て支援広場 ヤッホーハウスの取り組みについて	
調査理由	
<p>子どもや子育てに関し、課題や困難を抱える家庭に寄り添い、様々な関係機関が連携しながら支援を行うことについては本市でも喫緊の課題である。「ヤッホーハウス」では『乳幼児期の子供たちが安心して、のびのびと遊べる場』、『子育ての情報交換をしたり、親子が育ちあう仲間と出会える場』、『妊娠・出産・乳幼児期の子育て家庭が気兼ねなく集まり交流できる場』、『いろいろな経験や体験活動を通して、親同士が学び合える場』が提供され、子育ての悩みに寄り添って聞いてくれるスタッフの配置がなされていることから、今後の市の子育て政策への参考とするため視察を行った。</p>	
調査内容	
子育て支援広場 ヤッホーハウスの取り組みについて	
考察(各委員の考察を列記)	
<ul style="list-style-type: none"> ・現地に到着して、外観が想像以上にメルヘンの入り口のように感じて、テーマパークの中のゾーンではないかと思ったぐらい、わくわくした。内装が木目調で広く、天井の高いフロアにハンモックやおもちゃ、絵本など様々に選べる素材に、いろんなことを親子で楽しめるようになっている。キッチンや小さなサイズのトイレ、食事のできるテラスなどあり、乳幼児と家族のどのような状態にも対応できる環境が構築されていた。 ・常に見守る職員がいること、親子で休憩できる場所、自由に出入りし自由に過ごしておしゃべりしやすい空間があることの大切さを実感した。赤ちゃんを寝かせた横で読書するお母さん、お子さんの様子を見合いながらおしゃべりする方もいるなどの様子に安堵を感じた。乳幼児と家族のより所を実感することができた。 ・木が多く取り入れられ、ジブリの世界のように、優しい温もりがある施設であった。また、隠れ部屋ゾーンがあり、気を安らぐ施設。 ・母子ともに安らぎを与えられるよう、利用者目線で施設運営がされていた。 ・ハンモックや木のオモチャなど普段では触れないようなものもあった。 ・お下がりゾーンが常時設置されていた。子育て世代はサイズが大きくなったりと洋服の買い替えでかなり負担があることから良い取り組みだと感じた。 ・整備費用など、運営法人からの手出し金額が多い印象だが、子育て支援について熱い思いのある法人だからこその施設だと感じた。 ・施設が大きく、隣接された保育園との交流もあった。視察当日にはムービー作りを行っていた。 ・利用者の大半が0歳児の親子であった。玄関に入る前に、よちよち歩きの子どもに出会った。外に出たいという子どものペースに合わせ、後ろから親がついている。中に入ると、好きな遊具で遊ぶ親子。寝ている子どものそばで読書する母親。授乳する母親。そして畳の部屋で寝ている子どもと離れて図書コーナーで読書する母親など様々であった。それぞれの親・子が自分の安らげる居場所があり、そこにはゆったりとした空間があり、時間があった。 	

・一人一人に対応するので、一斉に集めるようなことはしていない。親子は自分の都合で来る時間と帰る時間を決めている。長いときは、お昼を挟んで午後の時間も過ごす場合もある。親子が求めているところは皆違う。専任の保育士が3人いて、そこに寄り添っており、支援センターのあるべき姿があった。

・支援センターは子どもの人権・命を守るところである。どこにも行き場がない0, 1, 2歳児の身近な場所、どこからでも相談できる場所である。虐待が一步手前で止まっているなど、社会的な変化の中であって、ニーズが高まってきていることを重く受け止めなければならない。

・はじめに、第一印象として施設の広さとウッドを主とした遊び心ある内装に驚いた。ヤッホーハウスは、現在、ひろば型で、水曜・木曜・金曜の9:30~14:30の開館だが、今後令和6年度にセンター型を目指しているとのことであった。

・現実を忘れるほどの施設で、利用者にとって身近にこのような施設があると嬉しいだろうと思った。しかし、それなりの資金力がないと、これほどの施設を整備することは容易ではないなとも同時に感じ、単純に浦添市でヤッホーハウスと同等の施設を真似することは難しいと思う。ただ、内装の工夫や運営の方法、例えば、こども子育てに使った洋服や道具などを利用者などから集めて、必要な方がもらうことが出来るリサイクルの体制をつくっていたり、ハンモックを設置していたり、テラスなら食事を可にしていたり、このような工夫は浦添市でも応用できる。非常に参考になった。



